

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ・情報倫理について講義する。 ・情報セキュリティについて講義する。 ・AI とブロックチェーン等の新しい技術革新について講義する。 【到達目標】 ・情報倫理の基本的な理解を習得する。 ・情報セキュリティについて理解する。 ・AI とブロックチェーン等の新しい技術革新に対応できる基本能力を身につける。				
授業の内容 進 め 方	1. パソコンのログイン Google Workspace の活用 【情報倫理】 オンライン授業での心がけ（録画・スクショ） 2. パソコン基礎知識（CPU・SSD・メモリ・LAN・WiFi） 【情報倫理】 スマホのマルウェア・電子署名の確認方法と仕組み 3. レポート作成上の基礎知識（MS-Office, WEB 版 Office, Google アプリ） 【情報倫理】 フェイクニュースの社会への影響 4. ネットワーク基礎知識（LAN と WAN・IP アドレス・DNS） 【情報倫理】 フェイクニュースの社会への影響 5. 情報セキュリティ（「機密性」、「完全性」、「可用性」） 【情報倫理】 情報発信と炎上， コミュニティサイトでの投稿注意 6. ネット情報の活用（LAN と WAN・IP アドレス・名前解決・偽サイト IP アドレス） 【情報倫理】 情報発信と炎上， コミュニティサイトでの投稿注意 7. 共通鍵暗号方式・公開鍵暗号方式について 【情報倫理】 盗聴・改ざん・なりすまし 8. YouTube ブランドチャンネルの活用 【情報倫理】 財産権と人格権， 著作物の扱いについて 9. WEB 制作（Google サイト・WordPress サイト） 【情報倫理】 アクセシビリティディスレクシア対応 10. ブロックチェーン・NFT について 【情報倫理】 著作権法の改正とネット配信・AI チャットボット・フィッシング， 詐欺行為 11. 生成 AI（ChatGPT, Bard） 【情報倫理】 スマホとプライバシー 12. ランサムウェア・ボットについて 【情報倫理】 情報倫理ハッシュ値， パスワードクラック攻撃・レインボー攻撃 13. ブロックチェーン・NFT 【情報倫理】 ランサムウェア・ボット 14. ハッシュ関数（改ざんを防ぐ方法）・デジタル署名 【情報倫理】 ハッシュ値， パスワードクラック攻撃・レインボー攻撃 15. ボット・C&C サーバ・ゾンビ・バックドア， rootkit， キーロガー 【情報倫理】 個人情報の管理とプライバシー， アプリ使用の長所と短所 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『令和 07 年 IT パスポートの 新 よくわかる教科書 (情報処理技術者試験) (日本語)』 単行本 原山 麻美子(著)；技術評論社				
準備学習の 具体的内容	情報処理に関する書籍・WEB 上の解説について調べておくこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) Classroom 課題 (80%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	山根 智恵		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 話しことば、書きことばの両面から日本語の効果的な表現方法を学ぶことによって、実践力を養う。話しことばの面では、基本的なことがらについて理解を深めるだけでなく、スピーチ力や電話応対力を身に付けることが可能となる。書きことばの面では、小論文・レポート・レジュメ・手紙を書く上で望ましい文章表現について確認し、実作することで、文章表現力の向上が可能となる。 【到達目標】 ・話しことばについては、ディベートも体験することで、コミュニケーション能力を高めるだけでなく、論理的に話す能力を身に付ける。 ・書きことばについては、社会人になった時、現場で対応できる文章力を実作を通して確認する。				
授業の内容 進 め 方	1. シラバス説明, ポートフォリオについての説明, 第1課（日本語の話し方, 振り返り） 2. 第1課（日本語の話し方 本文） 3. 第2課（スピーチをしよう） 4. 自己PR（第1グループ）, 第3課（日本語の表記 振り返り） 5. 自己PR（第2グループ）, 第3課（日本語の表記 本文） 6. 自己PR（第3グループ）, 第4課（文章表現と文章構成 振り返り） 7. 自己PR（第4グループ）, 第4課（文章表現と文章構成 本文） 8. 自己PR（第5グループ）, 第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り） 9. 第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 本文） 10. 第6課（敬語を学ぼう 振り返り 本文） 11. 第6課（敬語を学ぼう 練習問題） 12. 第7課（手紙を書こう 振り返り 本文） 13. 第8課（電話をかけよう 振り返り 本文） 14. 第9課（ディベートをしよう 振り返り 本文） 15. 第9課（ディベートをしよう 実践） 自己評価 他者評価 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト 『新版 基礎から学ぶ日本語表現法』（山根智恵・久木田恵, 大学教育出版） 参考図書 『敬語再入門』（菊池康人, 講談社学術文庫） 『新しい国語表記ハンドブック第8版』（三省堂編修所編, 三省堂） 『大学生と留学生のための論文ワークブック』（浜田麻里他, くろしお出版）				
準備学習の 具体的内容	毎回授業後に出された課題を、原則次の授業までに行い、提出する。				
評価の方法 基 準	1. 授業への取り組み（10%） 2. ポートフォリオ（90%）（1～9 課 各課 10%）				
履 修 上 の 注 意	なし。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	スポーツ 1		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	実技	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 スポーツ・運動の楽しさや心地よさを味わい、これまでに体育等ではあまり経験することのなかったスポーツ・運動を主に実践する。体力の向上を図り、健康を保持増進しようとする意欲や態度を身に付ける。 【到達目標】 ・スポーツ・運動の意義について理解できる。 ・各種のスポーツ・運動の特性について説明できる。 ・体力を保持増進する方法について理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業ガイダンス、スポーツスタッキング 2. バッジー 3. ボッチャ 4. ピロポロ①：基礎的・応用的技能の練習 5. ピロポロ②：ゲームとスキルテスト 6. ミニテニス（シングルス）①：基礎的・応用的技能の練習 7. ミニテニス（シングルス）②：ゲームとスキルテスト 8. ビーチボールバレー①：基礎的・応用的技能の練習 9. ビーチボールバレー②：ゲームとスキルテスト 10. プレールボール①：基礎的・応用的技能の練習 11. プレールボール②：ゲームとスキルテスト 12. フラッグフットボール①：基礎的・応用的技能の練習 13. フラッグフットボール②：ゲームとスキルテスト 14. 卓球（シングルス）①：基礎的・応用的技能の練習 15. 卓球（シングルス）②：ゲームとスキルテスト 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『大学生のスポーツと健康生活』（福岡大学スポーツ科学部） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。				
評価の方法 基 準	各運動に取り組む姿勢、会場設営や所属チームへの貢献度（10%） スキルテスト（90%）				
履 修 上 の 注 意	ジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	スポーツ2		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実技	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 スポーツ・運動の楽しさや心地よさを味わい、これまでに体育等で経験してきたスポーツ・運動のルールや用具を工夫し実践する。体力の向上を図るとともに、健康を保持増進しようとする意欲や態度を身に付ける。 【到達目標】 ・スポーツ・運動の意義について理解できる。 ・各種のスポーツ・運動の特性について説明できる。 ・体力を保持増進する方法について理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業ガイダンス、体ほぐしの運動 2. キックベースボール 3. ティーボール①：基礎的・応用的技能の練習 4. ティーボール②：ゲームとスキルテスト 5. ミニテニス（ダブルス） 6. ソフトテニス（ダブルス） 7. ソフトテニス（シングルス） 8. バドミントン（シングルス）①：基礎的技能の練習 9. バドミントン（シングルス）②：応用的技能の練習 10. バドミントン（シングルス）③：ゲームとスキルテスト 11. バスケットボール（3on3）①：基礎的・応用的技能の練習 12. バスケットボール（3on3）②：ゲーム 13. バスケットボール（3on3）③：ゲームとスキルテスト 14. タグラグビー①：基礎的・応用的技能の練習 15. タグラグビー②：ゲームとスキルテスト 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『大学生のスポーツと健康生活』（福岡大学スポーツ科学部） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。				
評価の方法 基 準	各運動に取り組む姿勢、会場設営や所属チームへの貢献度（10%） スキルテスト（90%）				
履 修 上 の 注 意	寒暖差の大きい体育館で身体的負荷の大きい運動を行うため、積極的に受講できる学生のみ履修すること。 ジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	生活福祉論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。 【到達目標】 ・社会福祉の意義について理解できる。 ・社会福祉の法制度について説明できる。 ・社会福祉の現状と課題について理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 現代社会と社会福祉 2. 社会福祉と関連法 3. 子ども家庭福祉の現状 4. 子ども家庭福祉の課題 5. 社会保障制度の現状 6. 社会保障制度の課題 7. 障がい児・者福祉の現状 8. 障がい児・者福祉の課題 9. 地域福祉の現状 10. 地域福祉の課題 11. 低所得者の福祉の現状 12. 低所得者の福祉の課題 13. ソーシャルワーク 14. 高齢者福祉の現状 15. 高齢者福祉の課題 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	直島正樹・原田句哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉（第3版）』萌文書林 2022 年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べる必要がある事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度（10%），発表・レポート課題（60%），コメントシート（30%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松内 紀之		
授 業 科 目	造形表現論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1,2年次・前期(隔年)
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ・過去の本専攻科修士論文あるいは、その他デザイン学系論文を中心に紹介しながら、学術論文作成に係る資料収集方法および、整理と資料のまとめ方について考える。 ・受講者が輪番でデザイン学系論文読解と紹介を行ない、各回のテーマに沿った発表と議論を行なう。 ・受講者が特定のテーマに基づいた調査を行い、その結果を発表する。 【到達目標】 ・多くのデザイン学系研究に触れることにより学術論文に慣れること。 ・独力でオリジナル論文の構成ができること。 ・発表演習と議論を通じて研究発表会における実践的な思考力を身に着けること。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 本授業の概要説明、論文構成の図解・図示方法解説 2. 事例（学術論文その1；基礎デザインに関する論考）紹介 3. 事例（学術論文その2；デザイン思想に関する論考）紹介 4. 受講者による事例（学術論文その3；絵画に関する論考等）紹介と討議 5. 受講者による事例（学術論文その4；デザイン史に関する論考等）紹介と討議 6. 受講者による事例（学術論文その5；生活学に関する論考等）紹介と討議 7. 受講者による事例（学術論文その6；物づくりと地域開発に関する論考等）紹介と討議 8. 受講者による事例（学術論文その7；道具学に関する論考等）紹介と討議 9. 受講者による事例（学術論文その8；祭礼学に関する論考等）紹介と討議 10. 受講者による事例（学術調査その1；道具学と事例収集等）紹介と討議 11. 受講者による事例（学術調査その2；文房具の事例収集等）紹介と討議 12. 受講者による事例（学術調査その3；屋外彫刻の事例収集等）紹介と討議 13. 受講者による事例（学術調査その4；都市空間の事例収集等）紹介と討議 14. 受講者による事例（学術調査その5；祭礼に関する事例収集等）紹介と討議 15. 試験と授業のまとめ ・第15回目授業の「試験」は授業時間の一部（30分程度）を用いた記述式試験である。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリント配布 参考図書；『図解作成の基本』（すばる舎） 参考図書；『見やすい資料のデザイン入門』（インプレス）				
準備学習の 具体的内容	発表担当に際しては、事前に担当教員と打ち合わせの上、発表準備を行う必要がある。				
評価の方法 基 準	発表（40%） 数回の提出レポート（40%） 試験（20%）				
履 修 上 の 注 意	履修者の学修状況によっては内容（事例収集に係るデータ収集方法等）を若干変更する場合がある。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松内 紀之（実務経験あり）		
授 業 科 目	立体制作論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ディスプレイデザインについて基礎知識と独自の視点を養い、比較・検討・議論を行う。そのためにまず、ディスプレイの成り立ちを把握し、基本的・部分的な制作を通じてディスプレイデザインの基礎知識を身に着ける。具体的には、まず基本的・部分的な作品制作を課題作品とし、表現手法や作品の背景をなす文化的事象を含めた議論を行う。授業終盤では、立体制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行う。 【到達目標】 プレゼンテーションは、各課題を通じて獲得した造形的感覚・服飾販売に係るアイデア・作品の背景をなす文化的事象が含まれていること、さらには、以下に挙げた参考図書中の基本的専門用語が運用できることを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	1. ディスプレイデザインについて 2. ディスプレイデザインの研究事例解題（解説） 3. ディスプレイデザインの研究事例解題（討議） 4. ディスプレイデザイン実例の検討（解説） 5. ディスプレイデザイン実例の検討（実地調査写真あるいは実例写真の収集） 6. ディスプレイデザイン実例の検討（討議） 7. デジタルカメラの基本確認・撮影演習 8. ディスプレイのグラフィックについて 9. ディスプレイデザインに隣接するデザイン領域 10. プロダクトデザイン概説 1—プロダクトデザインの背景 11. プロダクトデザイン概説 2—社会とプロダクトデザイン 12. プロダクトデザイン概説 3—ビジネスとプロダクトデザイン 13. 制作するまとめ作品に関する発表・討議、作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験				
実務経験を 活かす内容	インテリアデザイン事務所での実務経験を生かし、基礎知識と発想力を鍛える。 発想意図を伝達するに必要な表現力（スケッチ・制作・撮影）に係る実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『空間創造発想帖』（六耀社） 参考図書；『VMD ビジュアルテキスト&トピックス』（佐藤昭年） 参考図書；『プロダクトデザイン[改訂版]』				
準備学習の 具体的内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。				
評価の方法 基 準	月に2回程度の提出物（20%）、制作姿勢（20%） 試験（10%）、期末提出作品（50%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	三川 美幸（実務経験あり）		
授 業 科 目	幼児の音楽遊び演習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1,2 年次・前期（隔年）
授業の主題 目 標	【授業の主題】 幼児が日常生活の中で創造性を育むための音楽遊びの手法を認識し、より高度な援助技術について理解を深める。音から音楽遊びへ発展する子どもの音楽表現過程について理解する。 【到達目標】 ・保育者の声や楽器などの様々な音楽表現方法について実践を通して認識する。 ・各種の音楽媒体について理解し、音から音楽へ展開する過程について理解する。 ・既習の音楽知識を用いて、音楽あそびを創造する技法を身に付ける。				
授業の内容 進 め 方	1. 音楽遊びと保育者の援助について 2. 生活の中での音との関わり・音と音楽 3. 音・言葉からの発展とあそび 4. 伴奏の技法と表現について：携帯伴奏楽器 5. 鍵盤楽器（ピアノ）と和音 6. あそびへの発展・創作 7. ピアノのアンサンブル 8. 身体活動と音楽 9. 子どもの発達と楽器 10. 和音の機能と表現表出の関連性 11. アンサンブルと相互的な関わり 12. 音楽要素とあそび歌 13. 視覚的媒体とあそびの発展 14. 児童文化財の利用と音楽素材 15. 作品の発表とまとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	音楽療法士としての様々な保育臨床現場での実務経験を活かし、多様な子どものあそびを引き出す保育援助について具体的な事例を交え、実践的な教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	石井玲子著『表現者を育てるための保育内容音楽表現：音遊びから音楽表現へ』音楽之友社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 参考書： 小林実美編『こどものうた 200』チャイルド本社 小林実美編『続こどものうた 200』チャイルド本社				
準備学習の 具体的内容	・提示される演習課題について事前学習を行う。また、提示された事例について考える。 ・事後学習は、授業中の活動を振り返り自分なりの表現活動について考察する。 ・授業に関連する内容の事前調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	課題提出・授業中に課す課題への取り組み（40%）、課題発表（40%）、レポート（20%）				
履 修 上 の 注 意	・自己の表現表出を要する授業であるため、積極的に模擬保育へ参加すること。 ・ディスカッションにおいては積極的に参加し、他者の多様な音楽観を受容する姿勢を望む。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	三川 美幸（実務経験あり）		
授 業 科 目	幼児の音楽遊び演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1,2 年次・後期（隔年）
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 幼児が日常生活の中で創造性を育むための音楽遊びの手法を認識し、より高度な援助技術について理解を深める。音から音楽遊びへ発展する子どもの音楽表現過程について理解する。 【到達目標】 ・保育者の声や楽器などの様々な音楽表現方法について実践を通して認識する。 ・各種の音楽媒体について理解し、音とから音楽へ展開する過程について理解する。 ・既習の音楽知識を用いて、音楽あそびを創造する技法を身に付ける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 音楽療法的視点と保育領域におけるあそび 2. 即興の手法と音楽あそびにおける即興の手法/園生活での音楽展開 3. 導入の音楽あそび 4. 太鼓のあそびと非言語コミュニケーション 5. 音楽による身体表現の誘発 6. 音楽と様々な様式 7. 音楽によるイメージの想起 8. 音楽によるメッセージ・伝えるということ 9. 季節と音楽（春・夏） 10. 季節と音楽（秋・冬） 11. 絵本から発展する音楽と音楽様式・即興活動 12. 創造的なあそびと創作 13. 既存曲を利用した遊びの展開 14. 音楽あそびの計画・実施 15. 発表とまとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	音楽療法士としての様々な保育臨床現場での実務経験を活かし、多様な子どものあそびを引き出す保育援助について具体的な事例を交え、実践的な教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	石井玲子著『表現者を育てるための保育内容音楽表現：音遊びから音楽表現へ』音楽之友社 高山仁著『みんなで音楽』音楽之友社 必要に応じて資料を配布する。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 参考書： 小林実美編『こどものうた 200』チャイルド本社 小林実美編『続こどものうた 200』チャイルド本社				
準備学習の 具体的内容	・提示される演習課題について事前学習を行う。 ・事後学習は、授業中の活動を振り返り自分なりの表現活動について考察する。 ・授業に関連する内容の事前調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	課題提出・授業中に課す課題への取り組み（40%）、課題発表（40%）、レポート（20%）				
履 修 上 の 注 意	・自己の表現表出を要する授業であるため、積極的に模擬保育へ参加すること。 ・ディスカッションにおいては積極的に参加し、他者の多様な音楽観を受容する姿勢を望む。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	幼児の造形遊び演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1,2 年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 本演習では、身辺素材と用具を用いた表現技法の総合的活用による作品製作を行う。壁面装飾をはじめとした保育環境での展示を通じて作品と鑑賞者、相互の視点について実践的に学習すると共に、幼児との関わりについて考察を行う。 【到達目標】 素材の持つ感触と特性、用具の使用について考察し、幼児の造形活動における支援方法について理解を深める。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 初回オリエンテーション 2. 四季の保育環境づくり (1) 壁面装飾 12 ヶ月 デザイン案 3. 四季の保育環境づくり (2) 壁面装飾 12 ヶ月 原寸大下絵作成 4. 四季の保育環境づくり (3) 壁面装飾 12 ヶ月 平面表現・立体表現 5. 四季の保育環境づくり (4) 壁面装飾 12 ヶ月 平面表現・立体表現・接着材と接着方法 6. 四季の保育環境づくり (5) 壁面装飾 12 ヶ月 立体表現 7. 四季の保育環境づくり (6) 壁面装飾 12 ヶ月 立体表現・作品説明下書き 8. 四季の保育環境づくり (7) 壁面装飾 12 ヶ月 作品説明清書 9. 廃材を用いた工作活動 (1) 廃材を生かしたデザイン案製作 10. 廃材を用いた工作活動 (2) 用具・素材についての理解 11. 廃材を用いた表現活動 (3) 製作物の遊びへの活用と考察 12. 保育教材の製作 (1) ポップアップカード構造の理解 13. 保育教材の製作 (2) ポップアップカードの製作 14. 保育教材の製作 (3) ポップアップカードからの展開 15. 作品の発表と鑑賞 ICT 機器を用いた相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する 定期試験は実施しない。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	絵の具やパス、色鉛筆などの描画材料や工作活動に必要な用具や廃材は各自で準備すること。 榎 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林 F6 判スケッチブック 『幼稚園教育要領』 フレーベル館				
準備学習の 具体的内容	Classroom もしくはワークシートの QR コードを介して配信する動画から予習を行うこと。				
評価の方法 基 準	作品評価60%、ワークシート30%、模擬保育10%				
履 修 上 の 注 意	・保管の難しい工作物や活動のプロセスについて適宜写真撮影をすること。 ・準備物は前週の授業と Classroom より伝達する。 ・各回、絵具等を使用する為、華美な服装を避け必要に応じて工作用エプロンを着用すること。 ・教材費実費必要。 ・ペットボトルなどの廃材を洗浄の上、集めておくこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	別府 祐子（実務経験あり）		
授 業 科 目	音楽指導法特別演習Ⅰ		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、表現活動の中でも特に音楽表現について、乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。 【到達目標】 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された表現のねらい及び内容をおさえた上で、近年の保育実践の動向や、既存の音楽メソッド等をふまえて、より広い視点から、音楽に係る表現の多様なあり方を捉え、表現活動についての知見を深める。 ・これまでの学修を基礎として、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえて、より応用的・発展的に表現活動の具体的な指導場面を想定し、保育を構想・計画・指導・実践する力を高める。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 表現のねらい及び内容と音楽表現 2. 乳児の発達と音楽的表現（具体的な事例や映像からの考察を含む）と指導の留意点・保育者の役割 3. 幼児の発達と音楽的表現（具体的な事例や映像からの考察を含む）と指導の留意点・保育者の役割 4. 「聴く」ということについての視座 5. 「自然環境の中の音」教材研究（1）春の音 6. 乳幼児の歌唱表現 7. 乳幼児の歌唱指導／指導案の立案・検討（1）歌あそび（3歳未満児を対象として） 8. 模擬保育（1）歌あそび（3歳未満児を対象として）／模擬保育振り返り（録画映像による） 9. 指導案の立案・検討（2）歌あそび（3歳以上児を対象として） 10. 模擬保育（2）歌あそび（3歳以上児を対象として）／模擬保育振り返り（録画映像による） 11. 小括（乳幼児の歌唱表現とその指導）／「自然環境の中の音」教材研究（2）夏の音 12. ダルクローズの音楽教育 13. 指導案の立案・検討（3）音楽と体の動きによる表現を取り入れた遊び 14. 模擬保育（3）音楽と体の動きによる表現を取り入れた遊び／模擬保育振り返り（録画映像による） 15. 表現活動における情報機器及び教材の活用について 16. オルフの音楽教育（1）概論 17. オルフの音楽教育（2）オルフ楽器の活用 18. 乳幼児と楽器とのかかわり及び楽器の扱い方／指導案の立案・検討（4）楽器を用いた遊び 19. 模擬保育（4）楽器を用いた遊び／模擬保育振り返り（録画映像による） 20. 「自然環境の中の音」教材研究（3）秋の音の楽器づくり 21. わらべうた／コダーイの音楽教育 22. 指導案の立案・検討（5）わらべうたを用いた遊び 23. 模擬保育（5）わらべうたを用いた遊び／模擬保育振り返り（録画映像による） 24. 音を描く活動・音の様々な表し方（図形楽譜等） 25. 創造的音楽づくり 26. 指導案の立案・検討（6）音楽づくりの活動 27. 模擬保育（6）音楽づくりの活動／模擬保育振り返り（録画映像による） 28. 日本における乳幼児の音楽教育の史的変遷とこれからの表現の指導のあり方現代的課題 29. 「自然環境の中の音」教材研究（4）冬の音／幼児期の表現活動と小学校の教科との学びの連続性について 30. 音楽表現の評価のあり方とは／音楽表現・その指導法の動向について 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	中学校音楽教諭としての実務経験を生かして、音楽に係る多様な表現のあり方や、豊かな表現を引き出すための指導法について、実践的な教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	石井玲子編『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版社、小林美実編『子どものうた 200』チャイルド本社、小林美実編『続 子どものうた 200』チャイルド本社、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、参考図書：全国大学音楽教育学会 中・四国地区学会編著『はぐくむアタッチメント 0～5歳の手あそび・歌遊び』音楽之友社、吉富功修・三村真弓編著『改訂5版 幼児の音楽教育法 ー美しい歌声をめざしてー』ふくろう出版				
準備学習の 具体的内容	テキストによる予習・復習を行う。 指導案作成や模擬保育を実施する授業回には、準備学習として教材研究を行ってくる。				
評価の方法 基 準	指導案・模擬保育・模擬保育の振り返り（50%）、レポート課題（50%）				
履 修 上 の 注 意	事前準備をしてから、授業に臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻		担 当 教 員	別府 祐子		
授 業 科 目	音楽指導法特別演習Ⅱ			科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2年次・前期	
授業の主題 目 標	【授業の主題】 音楽指導法特別演習Ⅰでの学修を基礎に、乳幼児が音や音楽で表現をすることの意味を改めて問い直す。そのために、音楽表現を、乳幼児の発達、人間関係、遊びや生活の視点と関連づけて捉える。そのうえで、乳幼児の音楽表現指導の方法やその課題について、熟考する。 【到達目標】 ・乳幼児の音楽表現や、その指導のあり方について、多様な視点から具体的かつ発展的に考察する。 ・保育・幼児教育における音楽表現の研究動向や課題を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 ・実践を通して保育を改善する視点を身につける。					
授業の内容 進 め 方	1. 子どもの声や動きと音楽性 2. 乳幼児の音楽的表現の実際 3. 子ども同士の関わりと音楽表現 4. 乳幼児の発達と歌（1）適正音域と移調、及び伴奏のあり方 5. 乳幼児の発達と歌（2）遊びうたの創作 6. 乳幼児の発達と歌（3）遊びうたを使った指導案の作成 7. 乳幼児の発達と歌（4）遊びうたを使った指導実践と課題 8. 絵本と音楽（1）絵本の選定と構想 9. 絵本と音楽（2）イメージと音 10. 絵本と音楽（3）指導と課題 11. 様々な素材と音楽表現（1）音楽表現における「様々な素材」とは？ 12. 様々な素材と音楽表現（2）音楽表現と ICT ツールの活用 13. 様々な素材と音楽表現（3）素材と素材の組み合わせ 14. 効果的な指導のための視覚的工夫と指導方法 15. 総括 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	石井玲子編『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版社、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』 参考図書：全国大学音楽教育学会 中・四国地区学会編著『はぐくむアタッチメント 0～5歳の手あそび・歌遊び』音楽之友社、吉富功修・三村真弓編著『改訂5版 幼児の音楽教育法 ―美しい歌声をめざして―』ふくろう出版					
準備学習の 具体的内容	テキストや関連資料による予習・復習を行う。					
評価の方法 基 準	授業での課題（50%）、最終レポート課題（50%）					
履 修 上 の 注 意	なし					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	造形指導法特別演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 幼児が「表現する過程」を楽しみ、各々の持つ豊かな感性を味わい、表現する意欲を引き出すことが活動の基本である。これを踏まえて、本演習では「領域『表現』のねらいと内容」「保育者の援助姿勢」「幼児期の造形表現の在り方」を軸とし、保育実践に臨むための造形技術を修得する。 【到達目標】 受講生は、本演習を履修することにより(1)造形素材、道具の扱い方、(2)造形原理と子どもの造形発達段階の理解、(3)保育実践現場における造形的環境構成力を修得することができる。				
授業の内容 進 め 方	1. 初回オリエンテーション、領域「表現」の造形のねらい及び内容について理解する 2. 版の表現活動 (1) スチレン版の凹凸の製作 3. 版の表現活動 (2) スチレン版の刷り 4. 絵の表現活動 (1) 季節の絵葉書デザイン案 5. 絵の表現活動 (2) デザイン案から絵葉書の製作 6. 工作活動 (1) クランクによるおもちゃ作り、デザイン案製作 7. 工作活動 (2) 用具・素材についての理解 8. 工作活動 (3) 製作物の遊びへの活用と考察 9. 版の表現活動 (3) コラグラフによるオリジナルスタンプ製作 10. 版の表現活動 (4) オリジナルスタンプからの展開 11. 魚釣り遊び (1) デザイン案、用具の製作 12. 魚釣り遊び (2) 用具の製作、模擬保育 13. 造形遊び (1) ビニールを素材にした遊びと製作 14. 造形遊び (2) 紙を素材にした遊びと製作、模擬保育 15. 鑑賞活動 ICT による相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	絵の具やパス、色鉛筆などの描画材料や工作活動に必要な用具や廃材は各自で準備すること。 檜 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林 F6 判スケッチブック 『幼稚園教育要領』フレーベル館				
準備学習の 具体的内容	Classroom もしくはワークシートの QR コードを介して配信する動画から予習を行うこと。				
評価の方法 基 準	作品評価60%、ワークシート30%、模擬保育10%				
履 修 上 の 注 意	・保管の難しい工作物や活動のプロセスについて適宜写真撮影をすること。 ・準備物は前週の授業と Classroom より伝達する。 ・各回、絵具等を使用する為、華美な服装を避け必要に応じて工作用エプロンを着用すること。 ・教材費実費必要。 ・牛乳パック、ペットボトルなどの廃材を洗浄の上、集めておくこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	造形指導法特別演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 本演習では幼児教育における造形表現の支援を目的に、自然環境も含めた多様な素材の特性とその性質を活用した教材の作成方法と知識、幼児への支援方法を獲得する。また、ICT 機器を使用したアニメーション絵本などの製作活動を通じ、今日的な教材製作について考察を行う。 【到達目標】 透明素材を介した光と色彩による表現活動や ICT 機器を活用した製作活動などを通じ、今日的な教材製作についての理解を深める。				
授業の内容 進 め 方	1. 初回オリエンテーション 2. 工作活動 (1) 平面のおもちゃづくり 3. 工作活動 (2) 構造を生かしたデザインの製作 4. 光と色彩の表現活動 (1) 透明素材と色材を使用した光の造形遊び 5. 光と色彩の表現活動 (2) 光の造形遊びの実践方法についての考察 6. ICT を活用した表現 (1) オリジナルの物語によるシナリオ製作 7. ICT を活用した表現 (2) 考案したシナリオによる絵コンテの製作 8. ICT を活用した表現 (3) アニメーション化の撮影 9. ICT を活用した表現 (4) 鑑賞活動・模擬授業 10. 錯視による表現活動 (1) 錯視による表現の解説 11. 錯視による表現活動 (2) ICT 機器を活用した錯視画像の製作 12. 版の表現活動 (1) ステンシルデザイン案 13. 版の表現活動 (2) ステンシル版の製作 14. 版の表現活動 (3) ステンシルによる布地への刷り 15. 鑑賞活動 ICT による相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	絵の具やパス、色鉛筆などの描画材料や工作活動に必要な用具や廃材は各自で準備すること。 槇 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林 F6 判スケッチブック 『幼稚園教育要領』 フレーベル館				
準備学習の 具体的内容	Classroom もしくはワークシートの QR コードを介して配信する動画から予習を行うこと。				
評価の方法 基 準	作品評価60%、ワークシート30%、模擬保育10%				
履 修 上 の 注 意	・保管の難しい工作物や活動のプロセスについて適宜写真撮影をすること。 ・準備物は前週の授業と Classroom より伝達する。 ・各回、絵具等を使用する為、華美な服装を避け必要に応じて工作用エプロンを着用すること。 ・教材費実費必要。 ・ペットボトルなどの廃材を洗淨の上、集めておくこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	身体・運動指導法特別演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1, 2 年次・通年 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 本科目では、幼児の発達段階や遊具・用具の特性に基づき、運動遊びの計画、実践、評価を行う。運動遊びの考案と実践を通して、幼児期の運動遊びの適切な指導内容・方法について、体験的に理解を深める。 【到達目標】 ・幼児の発達段階を考慮した運動遊びを計画することができる。 ・運動遊び指導の実践を振り返り、改善する視点を身につける。 ・幼児の運動能力を測定、評価する方法について理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業ガイダンス、幼児期の運動能力の実態と園での効果的な取り組みの理解 2. 過去の指導実践の紹介、担当回とペアの決定 3. 5 歳児の発育・発達段階の理解、指導計画の作成方法 4. 指導実践における内容や方法の検討：教材研究 5. 指導計画の検討①：個別添削 6. 指導計画の検討②：全体での確認 7. 指導実践①に関する模擬保育の実践 8. 指導実践①：ボールを使った運動遊び 9. 指導実践①の振り返り、指導実践①で用いた内容や方法の応用 10. 指導実践②に関する模擬保育の実践 11. 指導実践②：走る動きを含む運動遊び 12. 指導実践②の振り返り、指導実践②で用いた内容や方法の応用 13. 指導実践③に関する模擬保育の実践 14. 指導実践③：縄を使った運動遊び 15. 指導実践③の振り返り、指導実践③で用いた内容や方法の応用 16. 指導実践④に関する模擬保育の実践 17. 指導実践④：フープ・マットを使った運動遊び 18. 指導実践④の振り返り、指導実践④で用いた内容や方法の応用 19. 指導実践⑤に関する模擬保育の実践 20. 指導実践⑤：跳び箱・巧技台を使った運動遊び 21. 指導実践⑤の振り返り、指導実践⑤で用いた内容や方法の応用 22. 指導実践⑥に関する模擬保育の実践 23. 指導実践⑥：鉄棒を使った運動遊び 24. 指導実践⑥の振り返り、指導実践⑥で用いた内容や方法の応用 25. 指導実践⑦に関する模擬保育の実践 26. 指導実践⑦：サーキット遊び 27. 指導実践⑦の振り返り、指導実践⑦で用いた内容や方法の応用 28. 5 歳児に対する運動遊びの指導内容や方法のまとめ 29. 幼児の運動能力の測定と評価①：測定・評価における基本的な考え方 30. 幼児の運動能力の測定と評価②：MKS 幼児運動能力検査の内容と方法の体験的理解 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） 『保育と幼児期の運動あそび』（萌文書林） 『幼児期運動指針実践ガイド』（杏林書院） 『幼児期における運動発達と運動遊びの指導』（ミネルヴァ書房）				
準備学習の 具体的内容	テキスト等を用いて、運動遊びに関する教材研究を行うこと。 運動遊び指導の際に用いる遊具や用具、全体の環境の安全性を確認しておくこと。				
評価の方法 基 準	指導計画（30%）、指導実践（30%）、指導実践に対する反省・評価のレポート（20%）、 まとめのレポート（20%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻		担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	教育の思想と歴史			科 目 区 分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期	
授業の主題 目 標	【授業の主題】 本教科では、子ども観の歴史的変遷、近代から現代までの教育・保育の歴史的展開について、思想や制度に焦点をあてて、議論しながら理解を深めます。その上で、教育・保育の展開を社会のあり方との関係性という観点から歴史的に考察し、「いま」そして「これから」の教育・保育という営みへのより深い理解と検討のために、教育・保育の歴史を学ぶことを目指します。 【到達目標】 ・近代から現代までの教育・保育の歴史的展開を理解し、その社会的意味を考察できる。 ・教育・保育に係る思想やその制度の歴史を理解し、議論できる。 ・現代における教育・保育の課題を歴史的な視点から考察し、議論できる。					
授業の内容 進 め 方	1. ガイダンスー教育・保育における思想と歴史の概観 2. 子ども観の歴史的変遷 3. 近代における西洋の教育思想の外観 4. 近代における西洋の教育思想ールソー 5. 近代における西洋の教育思想ーペスタロッチ 6. 近代における西洋の教育思想ーフレーベル 7. 近代における西洋の教育思想ーデューイ 8. 近代における西洋の教育思想ーモンテッソーリ 9. 日本における教育・保育思想の概観 10. 日本における教育・保育の歴史ー明治期 11. 日本における教育・保育の歴史ー大正期 12. 日本における教育・保育の歴史ー昭和前期 13. 日本における教育・保育の歴史ー昭和後期 14. 日本における教育・保育の歴史ー平成期 15. 現代社会における教育・保育の今日的課題 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	適宜資料等を配付します。 テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，2021 年 参考書：伊藤潔志編著『哲学する保育原理』教育情報出版，2018 年 石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房，2013 年					
準備学習の 具体的内容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておきましょう。各回の授業内容に該当する箇所を読んでおくにより理解が深まります。					
評価の方法 基 準	レポート(50%) 発表の準備及び発表内容(30%) 授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%) 等により総合的に評価します。					
履 修 上 の 注 意	なし					

学 科	保育臨床専攻	担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	比較教育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 本教科ではまず、日本における教育・保育政策の動向を概説します。さらに各国や地域における現状と課題について、議論しながら考察します。その上で、各国の教育・保育の制度・保育者・就学前教育保育機関等についてテーマを設定し、調べ、まとめ、発表していきます。これらを通して、教育という営みを他の国や地域の事例と比較しながら検討することで、日本における教育と社会の関係について理解を深めたり、日本で当たり前として広まっていることに疑問を抱いたりできるようになることを目指します。 【到達目標】 ・諸外国の教育改革の動向を理解する。 ・日本の教育・保育の現状と課題について理解する。 ・日本と諸外国の教育・保育を比較検討し、議論できる。				
授業の内容 進 め 方	1. ガイダンスー比較教育特論における視座 2. 日本における教育・保育政策の動向 3. 日本における教育・保育政策の変遷ー戦前 4. 日本における教育・保育政策の変遷ー戦後 5. 諸外国における教育・保育政策の動向ーイギリス 6. 諸外国における教育・保育政策の動向ーアメリカ 7. 諸外国における教育・保育政策の動向ー中国 8. 諸外国における教育・保育政策の動向ーシンガポール 9. 諸外国における教育・保育政策の動向ードイツ 10. 諸外国における教育・保育政策の動向ーイタリア 11. 諸外国における教育・保育政策の動向ーフィンランド 12. 諸外国の教育・保育に関する議論ーテーマ設定 13. 諸外国の教育・保育に関する議論ー考察 14. 諸外国の教育・保育に関する議論ー発表 15. まとめー比較教育論的視座による日本における教育・保育政策の今日的課題の検討 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜資料等を配付します。 テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，2021 年 参考書：原清治，杉本均，山内乾史『比較教育学へのイマージュ』学文社，2016 年				
準備学習の 具体的内容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておきましょう。各回の授業内容に該当する箇所を読んでおくにより理解が深まります。				
評価の方法 基 準	レポート(50%) 発表の準備及び発表内容(30%) 授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%) 等により総合的に評価します。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司（実務経験あり）		
授 業 科 目	特別支援教育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 特別支援教育の定義，学校教育法施行令 22 条の 3 に規定された障がいの行動特徴を知り，個別の教育目標，内容方法と一人ひとりの幼児児童生徒に応じた指導及び支援の在り方等について，自立活動を中心に理解を深める。 【到達目標】 ・特殊教育から特別支援教育への変遷について説明できる。 ・養護・訓練から自立活動への変遷について説明できる。 ・自立活動の理念や基本的な考え方について説明できる。 ・実態把握から指導目標の設定までのプロセスが説明できる。 ・自立活動の指導法・評価について説明できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 『特別支援学校教育要領』改訂の経緯と基本方針 2. 自立活動の変遷と障がいの捉え方 3. 自立活動の要点 4. 自立活動の意義と指導の基本 5. 総則における自立活動 6. 自立活動の内容－1 健康の保持－ 7. 自立活動の内容－2 心理的な安定－ 8. 自立活動の内容－3 人間関係の形成－ 9. 自立活動の内容－4 環境の把握－ 10. 自立活動の内容－5 身体の動き－ 11. 自立活動の内容－6 コミュニケーション－ 12. 個別の指導計画の作成と作成の手順 13. 他領域・教科等との関連，指導の創意工夫，自立活動を主とした指導 14. 教師の協力体制，専門の医師等との連携協力 15. 個別の教育支援計画等の活用 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	特別支援学校での実務経験を活かし，個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成意義及び作成・評価・修正過程（PDCA サイクル）に関して実践的に教授する。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省（編）（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版。 文部科学省（編）（2017）『特別支援学校 幼稚部教育要領・小学部；中学部学習指導要領』開隆堂出版。 文部科学省（編）（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』開隆堂出版。 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社。 その他，適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分及び Google Classroom にあげる資料を予習・復習する。 授業中で，特に調べてくる事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	毎授業後のレポートを S（4 点）～D（0 点）で評価し，全 15 回分の総点を 100 点に傾斜配点し，評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン，携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは，「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻		担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	子どもの人権教育論			科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期	
授業の主題 目 標	【授業の主題】 本教科ではまず、子どもの権利条約に示される子どもの人権について理解します。その上で、子どもの権利のなかでも教育・保育に関わる権利を取り上げ、議論しながら考察していきます。さらに、子どもたちの教育・保育や生活について調べ、人権の観点から考察しまとめ、発表し議論します。 子どもだからこそ独自の権利があるという考え方は、歴史のなかで生み出されてきたものであり、子どもの人権の歴史や理念を理解することが、今日的課題の検討につながるのです。 【到達目標】 ・子どもの権利について理解し、基本的な知識を得る。 ・子どもの権利の歴史について理解し、その理念について考察できる。 ・子どもの人権について考察し、人権をどう守るか具体的に議論できる。					
授業の内容 進 め 方	1. 人権とは何か 2. 人権の理念と歴史 3. 歴史の中の子ども―児童労働との関係から 4. 子どもの権利の思想的基盤 5. 子どもの権利とは 6. 子どもの権利をどうとらえるか 7. 子どもの権利―最善の利益・発達 8. 子どもの権利―教育・保育 9. 子どもの権利―学校へ行かないこと・行けないこと 10. 子どもの権利―生活水準・学校給食をめぐって 11. 子どもの権利―虐待と分離 12. 子どもの権利―少年犯罪と少年法 13. 子どもの権利委員会 14. 子どもと人権 15. まとめ―子どもの人権に係る今日的課題の検討 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	適宜資料等を配付します。 テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，2021 年 参考書：日本弁護士連合会子どもの権利委員会『子どもの権利ガイドブック第2版』明石書店，2017 年木附山崎聡一郎『こども六法』光文堂，2019 年					
準備学習の 具体的内容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておきましょう。各回の授業内容に該当する箇所を読んでおくにより理解が深まります。					
評価の方法 基 準	レポート(50%) 発表の準備及び発表内容(30%) 授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%) 等により総合的に評価します。					
履 修 上 の 注 意	なし					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子		
授 業 科 目	発達心理学特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 生涯発達を踏まえ、身体、知覚、記憶・認知、知能・思考、言語・コミュニケーション、社会性、親密性、パーソナリティの発達の様相を学ぶ。子ども達の将来的な成長や発達の見通しを持ちながら関わることや、発達に見合った関わりがもたらす学習効果について理解することを目標とする。 【到達目標】 ・生涯発達の基礎理論をもとに、人の発達過程を理解できる。 ・各発達段階の特徴を踏まえ、保育の中で見通しを持った子どもとの関わりを想定できる。 ・発達を踏まえた保育者の関わりが子どもに与える学習効果を考えられる。				
授業の内容 進 め 方	1. 生涯発達の視点と保育・幼児教育 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1) 生涯発達とは (2) 発達段階のおさらい (3) 生涯発達の視点から捉える乳幼児期の重要性について 2. 生涯発達の基礎課題 (1) 発達の連続性と非連続性 (2) 発達の規定因 (3) 発達観について 3. 身体 of 生涯発達—① (1) 器官の成長・衰退・器官差 (2) 身長と体重の変化 (3) 性差 4. 身体 of 生涯発達—② (1) 粗大運動と微細運動の発達 (2) 脳神経系の発達 (3) 身体の異常 (先天異常／生活習慣病) 5. 知覚 of 生涯発達—① (1) 視覚の発達と低下 (2) 聴覚の発達と低下 (3) 触覚の発達と低下 6. 知覚 of 生涯発達—② (1) 触覚の発達と低下 (2) 味覚・臭覚の発達と低下 (3) 感覚の統合 7. 記憶・認知 of 生涯発達 (1) 記憶の萌芽 (2) 表象機能の発達 (3) 自己中心性／自己中心性からの脱却 (4) 記憶と認知の完成 8. 知能・思考 of 生涯発達—① (1) 知能とは何か／思考とは何か (2) 表象的思考の発達 (3) 素朴理論の発達 9. 知能・思考 of 生涯発達—② (1) 読み書き能力の発達 (2) 自律的な課題解決の発達 (3) 論理的思考・批判的思考の発達 10. 言語・コミュニケーション of 生涯発達 (1) 言語獲得とコミュニケーションの発達 (2) 原初的なコミュニケーション (3) 言語を超えたつながり (4) 文章作成と主体／文章作成とアイデンティティ 11. 親密性の生涯発達—① (1) 親密性とは (2) 養育者との関係 (3) 親しい友人関係の形成 12. 親密性の生涯発達—② (1) 異性との関係 (2) 家族としてつながる (3) 守られる立場から守る立場へ 13. 社会性の生涯発達 (1) 身近な大人の影響力 (2) 仲間の影響力 (3) メディアの影響力 14. パーソナリティ of 生涯発達 (1) パーソナリティの5つの原理 (2) 気質とパーソナリティ (3) 価値観 (4) 自己概念 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』ナカニシヤ出版／ISBN9784779513435 『保育所保育指針』フレーベル館／ISBN978-4-577-81423-9 『幼稚園教育要領』フレーベル館／ISBN978-4-577-81422-2 その他適宜資料配布				
準備学習の 具体的内容	テキストおよび授業資料について予習・復習をする。 これまでに単位修得した発達心理学関連領域の復習をする。				
評価の方法 基 準	授業での課題 (50%) 最終レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習が必要となる。 初回授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子（実務経験あり）		
授 業 科 目	教育相談特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 教育相談は、幼児、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。発達状況に即し、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎知識を学ぶ。 【到達目標】 ・教育相談の意義と理論を理解する。 ・教育相談に必要な基礎知識（カウンセリングマインドに基づいたカウンセリング技法）を身につける。 ・各発達期の特徴と諸問題を理解し、計画に基づいた組織的な取り組みや連携を理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 教育相談の理解 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1) 教育相談の定義、意義、目的 (2) 教育相談の種類と実際（問題解決的教育相談／予防的教育相談／開発的教育相談） 2. 教育相談の基礎理論 (1) 教育相談を支える心理学（臨床心理学／カウンセリング心理学／学校心理学） 3. 子どもの発達段階の理論／各発達段階特有の課題について (1) 発達段階の理論（フロイト／ピアジェ／エリクソン） (2) 乳幼児期：愛着形成 (3) 児童期：仲間関係 (4) 青年期：同一性の確立と職業 4. 子どもの抱える困難さ（反社会的行動／非社会的行動／特別な支援を必要とする子ども） 5. 教育相談の方法―① アセスメント（情報収集）の方法 (1) 観察法 (2) 面接法 (3) 質問紙調査法 (4) 検査法 (5) 作品法 (6) 事例研究法 6. 教育相談の方法―② アセスメントにおける諸注意 (1) 心構え（インフォームド・コンセント／アカウンタビリティ／秘密保持／対象との関係） 7. 教育相談の方法―③ 行動観察の実際 (1) 継続的観察 (2) 焦点化観察 (3) 自然的観察 (4) 実験的観察 (5) 記録の取り方 8. 教育相談の方法―④ アセスメント面接の実際 (1) 心構え (2) 面接初期／面接中期／面接後期 (3) 言語・非言語によるコミュニケーションの理解 9. 教育相談の方法―⑤ 心理検査の実際 (1) 知能検査（ビネー式知能検査／ウェクスラー式知能検査／その他／留意事項） (2) 発達検査（質問紙による発達検査／個別式発達検査／その他／留意事項） 10. 教育相談の方法―⑥ 心理検査の実際 (1) 学力検査 (2) 適性検査 (3) 性格検査 (4) 検査バッテリーについて 11. 教育相談の方法―⑦ 質問紙調査の実際 (1) メンタルヘルス関係質問紙法 (2) パーソナリティ関係の質問紙法 (3) 注意事項 12. 教育相談の実際―① チームで行う教育相談 (1) 組織 (2) 多様な相談資源（人的資源）の利用について (3) 多様な相談資源（社会的資源）の利用について 13. 教育相談の実際―② 相談支援の現場 14. 教育相談の実際―③ コンサルテーションについて 15. 教育相談を行う専門職者のメンタルヘルス、まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	幼児の発達巡回指導、小学校での特別支援事業での経験を活かし、子どもの抱える困難さ、教育相談の方法、教育相談の実際などについて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男（編著）『MINERVA はじめて学ぶ教職⑩ 教育相談』 ミネルヴァ書房／ISBN978-4-623-08526-2 『幼稚園教育要領』フレーベル館／ISBN978-4-577-81422-2 その他適宜資料配布				
準備学習の 具体的内容	テキストおよび授業資料について予習・復習をする。				
評価の方法 基 準	授業での課題 (50%) 最終レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる。 初回授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子		
授 業 科 目	保育・教育臨床心理学実践特論		科 目 区 分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 保育・幼児教育の現場では、長期的な子どもへの関わりを通して情報を収集・分析し、保育者の関わりが子どもの成長発達に与える効果について研究がなされる。本講義では、保育者・教育者として、子どもや養育者等の対象理解を行うための心理学的研究法を学ぶ。 【到達目標】 ・保育幼児教育における学問的な知識に基づき、保育実践における問題意識や目的意識を認識できる。 ・研究倫理を理解し、適切な研究計画を立案できる。 ・適切な方法により情報を収集、分析し、考察結果を報告書等にまとめる力を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 保育・幼児教育の現場における研究について シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1) 研究法概論（研究法を学ぶ意義／心に関する概念） 2. 研究計画の立案方法 (1) 先行研究のレビュー (2) 問題・目的の設定 (3) 研究法の選択（実験法／質問紙調査法／観察法／面接法／検査法／実践的研究） 3. 研究倫理の理解—① (1) 研究倫理の基本原則（人格の尊重／善行／公正） (2) 対象者への配慮（インフォームド・コンセント／個人情報の保護） 4. 研究倫理の理解—② (1) 不正行為の防止について（捏造／改ざん／剽窃） (2) 利益相反管理について 5. 研究倫理の理解—③ 研究倫理 e ラーニングの実践 6. 研究法—① 質問紙法（質問紙法の概要／基礎概念／質問紙調査の分類とデータ収集の手順） 7. 研究法—② 観察法（観察法の概要／量的方法／質的方法／倫理的配慮） 8. 研究法—③ 面接法（面接法の概要／調査面接法／臨床面接法） 9. 研究法—④ 検査法（検査法の概要／知能検査／発達領域の検査／パーソナリティ検査／適応行動・生活機能検査） 10. 研究法—⑤ 実践的研究法（実践的研究法の概要／事例研究／実践的フィールドワーク／アクション・リサーチ） 11. データ処理・分析方法—① 尺度の種類とデータ整理 12. データ処理・分析方法—② 基礎統計 13. データ処理・分析方法—③ 推測統計 14. データ処理・分析方法—④ 仮説検定 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	三浦麻子・小島康生・平井啓（編著）『心理学研究法』ミネルヴァ書房／ISBN978-4-623-08614-6 適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	研究立案やデータ収集の方法について事前学習が必要となる場合がある。				
評価の方法 基 準	研究倫理 e ラーニングに関する中間課題の提出（50%） 研究法に関する最終レポート（50%）				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる。 初回授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	児童文化学特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 人間が文化的存在である前提に立てば、乳幼児期の子どもの文化的価値観を豊かに育むことは恒久的な課題であり、保育・幼児教育には文化的な視点が求められる。本授業では、現代の子どもを取りまく社会的・文化的状況をふまえ、理論と実践の両面から、児童文化に関する学習を深める。 【到達目標】 ・児童文化の歴史・概念・定義・対象・領域等に関する学びを深め、その意義を理解する。 ・作品の分析や考察、及び作家の研究を通して、児童文化を構造的に把握する。 ・児童文化財の制作と上演を通して、児童文化に関する保育の構想と実践について複合的に理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 児童文化とはなにか (1) 子ども観の変遷に基づく成立史 2. 児童文化とはなにか (2) 定義・対象・領域 3. 子どもの生活と文化の現状とその問題点 (1) 内容的側面 4. 子どもの生活と文化の現状とその問題点 (2) 媒介的側面 5. 児童文化の伝統と継承及び創造 6. 作家論・作品論 (1) ベイビーシアター（乳児向け舞台芸術） 7. 作家論・作品論 (2) 絵本 8. 作家論・作品論 (3) 人形劇 9. 作家論・作品論 (4) アニメーション 10. 作品理解に基づいた児童文化財の保育への活用 (1) 保育の構想 11. 作品理解に基づいた児童文化財の保育への活用 (2) 模擬保育の実践 12. 児童文化財の制作と上演 (1) 主題の設定、内容の検討 13. 児童文化財の制作と上演 (2) 製作と練習 14. 児童文化財の制作と上演 (3) 上演と振り返り 15. 児童文化に関わる政策、授業の総括 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018 年。 厚生労働省：『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018 年。他、幼児教育関係告示文。 〔参考書〕川勝泰介/編著『よくわかる児童文化』、ミネルヴァ書房、2020 年。 その他、必要に応じて適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	指定された資料・テキストにより、次回の授業内容の予習をする。演習の準備（製作、練習等）をする。 授業後に内容を振り返り、気づきと学びをまとめる。				
評価の方法 基 準	受講態度（平素の取り組みや学習への参加、協同的学びへの貢献）（40%） 期末課題（60%）				
履 修 上 の 注 意	積極的な態度で受講することを希望する。 知識や技術の修得だけでなく、物の見方や考え方を培う姿勢や課題に対する態度を重視する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	神崎 貞子		
授 業 科 目	幼稚園体験活動		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・通年（集中）
授業の主題 目 標	【授業の主題】 本授業は、幼稚園や認定こども園において、教諭としてのインターンシップ・職業体験の機会として位置付けられています。具体的には、幼稚園や認定こども園における教育活動やその他の業務全般について、支援や補助業務を行います。これらの体験を通して、教諭の職務の実態を把握し、自己の適性や課題を明確にし、今後のキャリア形成に資することを目的とする。 【到達目標】 ・学級担任の補助的な役割を担う中で、教諭の職務内容を理解する。 ・様々な活動の場面において、適切に幼児と関わることができる。 ・保育に必要な基礎的技術（幼児理解、環境の構成、保育の展開など）を身に付ける。				
授業の内容 進 め 方	配属先施設での担任による教育活動の周回の参加を体験する。 1) 期間・日程（予定） 10 月中旬に 5 日間の体験活動を行う。 なお、体験活動の前後に、事前訪問（9 月中）と事後訪問（10 月下旬）を行う。 2) 配属施設 倉敷市保健福祉局子ども未来部保育・幼稚園課および倉敷市教育委員会の協力を得て、倉敷市公立認定こども園および幼稚園で実施する。 3) その他 幼稚園体験活動の事前・事後指導の日程は、掲示板を通して提示する。 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	内閣府・文部科学省・厚生労働省『保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年施行）』レーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成 30 年施行）』レーベル館 ※必要に応じて、適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	幼稚園教育要領解説や本科 2 年次の教育実習における実習日誌等を読み返し、保育者の職務について自分なりに考えること。				
評価の方法 基 準	活動に取り組む積極的姿勢（30%） 報告会での発表内容（20%） 活動記録の提出による内容の評価（50%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	幼児の国際理解演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 グローバル化が進展する中、国際的視野を持った保育者のニーズは今後さらに高まることが予想される。本講義では、国内外の保育現場における国際理解の現状を知り、保育者自らが国際理解を深めることで、将来幼児の国際理解教育について実践できるようになることを目指す。なお、テキストは各章の事前学習・ワーク・事後学習に沿って学べるワークブックであり、演習形式で進める。 【到達目標】 ・将来保育者に必要な国際理解の知識を修得することができる。 ・国内外における保育現場について、国際理解の観点から比較し、理解を深めることができる。 ・幼児期の国際理解について、自ら課題を設定して、保育実践をすることができる。				
授業の内容 進 め 方	1. ガイダンス / 国際理解とグローバル化 2. 国際社会と英語教育 3. 国際理解と教育—ドイツの事例から— 4. 子育て支援・保育の国際比較 5. 国際理解と諸外国の保育 (1) スウェーデン・イギリス・フランス 6. 国際理解と諸外国の保育 (2) イタリア・アメリカ 7. 日本の幼児教育における英語教育 8. 未来を託す国際社会における子ども理解 (1) 食に関わる国際機関など 9. 未来を託す国際社会における子ども理解 (2) 子どもと一緒に楽しむ保育教材など 10. 国際理解とSDGs (1) 食糧問題 11. 国際理解とSDGs (2) 環境問題 12. 国際理解・SDGs・英語を相互に結び付けた教材作り (1) 食糧問題 13. 国際理解・SDGs・英語を相互に結び付けた教材作り (2) 環境問題 14. 発表 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	五十嵐淳子（編著）（2021）『国際関係の学び—グローバル社会の子どもの社会を見据えて—』大学図書出版				
準備学習の 具体的内容	必ず予習をして臨み、疑問点などを整理しておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度（授業への積極的な参加、毎時間コメントペーパーを提出）（30%） 課題（30%） 発表（40%）				
履 修 上 の 注 意	特になし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	専門英語文献講読		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	【授業の主題】 本講義の前半では、英語絵本を講読して特徴を学び、オリジナル英語絵本を作成する。さらに、英語圏の伝承童謡であるマザー・グースを読み、英語の手遊び唄を学ぶ。後半は、保育・幼児英語教育に関する文献を講読することで研究方法を体系的に学ぶとともに、保育や幼児英語教育に関する英語の専門用語を理解し、習得することを目的とする。なお、毎回講義の前半は、多読の実践またはマザー・グースを読む。 【到達目標】 ・英語で書かれた保育に関する論文を講読し、研究方法を習得することができる。 ・英語で書かれた保育に関する論文を講読し、専門用語を習得することができる。 ・英語で書かれた保育に関する論文を講読し、内容を深めて自分の意見を発表することができる。				
授業の内容 進 め 方	1. ガイダンス / マザー・グースとは？ 2. 多読 / 英語絵本の講読 特徴 3. 多読 / 英語絵本の講読 構成 4. 多読 / 英語絵本の講読 内容 5. 多読 / オリジナル英語絵本の作成 (1) 構成 6. 多読 / オリジナル英語絵本の作成 (2) 内容 7. 多読 / オリジナル英語絵本の作成 (3) 英訳 8. オリジナル英語絵本の発表 9. マザー・グース 〈Hush-A-Bye, Baby〉, 〈Diddle, Diddle, Dumpling〉, 〈This Little Pig〉 10. マザー・グース 〈Ride A Cock-Horse〉, 〈Rub-A-Dub-Dub〉, 〈Wee Willie Winkie〉 11. マザー・グース 〈Pat-A-Cake〉, 〈Pease Porridge Hot〉, 〈Ring-A-Ring O' Roses〉 12. マザー・グース 〈Oranges And Lemons〉, 〈London Bridge Is Falling Down〉, 〈Baa, Baa, Black Sheep〉 13. マザー・グース 〈Ladybird〉, 〈Hickory Dickory Dock〉, 〈Three Blind Mice〉 14. マザー・グース 〈Pussy Cat, Pussy Cat〉, 〈Georgie Porgie〉, 〈Little Bo-Peep〉 15. マザー・グースの手遊び唄に関する発表 16. マザー・グース 〈Little Miss Muffet〉 / 英語論文 講読 英語論文の検索 17. マザー・グース 〈Little Boy Blue〉 / 英語論文 講読 英語論文の読み方 18. マザー・グース 〈Little Tommy Tucker〉 / 英語論文 講読 論文の構成 19. マザー・グース 〈Little Jack Horner〉 / 英語論文 講読 Introduction 20. マザー・グース 〈Mary, Mary〉 / 英語論文 講読 Literature Review 21. マザー・グース 〈Old King Cole〉 / 英語論文 講読 Methodology 22. マザー・グース 〈Peter Pumpkin Eater〉 / 英語論文 講読 Procedure 23. マザー・グース 〈One, Two, Buckle My Shoe〉 / 英語論文 講読 Participants 24. マザー・グース 〈Peter Piper〉 / 英語論文 講読 Statistics 25. マザー・グース 〈Sing a Song of Sixpence〉 / 英語論文 講読 Tables and Figures 26. マザー・グース 〈Who Killed Cock Robin?〉 / 英語論文 講読 Findings 27. マザー・グース 〈The Old Woman In A Shoe〉 / 英語論文 講読 Discussion 28. マザー・グース 〈Old Mother Hubbard〉 / 英語論文 講読 Conclusion 29. マザー・グース 〈To The Rain〉 / 指定した英語論文のスライド作成と原稿作成 30. 発表 定期試験は実施しない				
テ キ ス ト 教 材	来往正三著『マザー・グースの世界』南雲堂				
準備学習の 具体的内容	必ず予習をして臨み、未知の単語があれば辞書で調べておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度（授業への積極的な参加）（20%） 課題（30%） 発表（50%）				
履 修 上 の 注 意	英和辞書を持参すること。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	児童福祉特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期（隔年）
授業の主題 目 標	【授業の主題】 児童家庭福祉分野におけるソーシャルワークの基本概念や構造について学ぶとともに、児童福祉施設におけるソーシャルワークだけでなく、学校におけるスクールソーシャルワークについても理解する。 【到達目標】 ・児童家庭福祉分野におけるソーシャルワークの基本概念や構造が理解できる。 ・児童福祉施設におけるソーシャルワークが説明できる。 ・学校におけるスクールソーシャルワークが理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 児童家庭福祉分野におけるソーシャルワーク 2. 児童福祉施設におけるソーシャルワーク 3. 保育所と地域子育て支援センターでのソーシャルワーク 4. 乳児院におけるソーシャルワーク 5. 児童養護施設におけるソーシャルワーク 6. 地域小規模児童養護施設におけるソーシャルワーク 7. 児童心理治療施設におけるソーシャルワーク 8. 自立援助ホームにおけるソーシャルワーク 9. 退所児童等アフターケア事業とソーシャルワーク 10. 社会的養護にかかわる当事者団体のソーシャルワーク活動 11. 分園型小規模グループケアと里親支援におけるソーシャルワーク 12. 児童養護施設と学校をつなぐソーシャルワークの展開 13. 学校におけるソーシャルワークの展開とその展望 14. 学校におけるスクールソーシャルワーカーの支援 15. 児童家庭福祉の課題と展望 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	櫻井慶一・宮崎正宇編著『福祉施設・学校現場が拓く児童家庭ソーシャルワーク：子どもとその家族を支援するすべての人に』北大路書房 2017 年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べるが必要な事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度（10%）、発表・レポート課題（60%）、コメントシート（30%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	平岡 敦子（実務経験あり）		
授 業 科 目	乳児保育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 近年の乳児保育のニーズが高まる中、保育者として乳児保育の対象者となる子どもとその環境を理解することをねらいとする。 【到達目標】 乳児の心身の発達の特徴とそれを保障するための生活環境について学び、また乳児を持つ家族の発達やその特性、生理的な変化及び社会的環境を知り、乳児保育場面における子育て支援のあり方について学ぶことを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	本科目は以下のようにすすめていく。 1. オリエンテーション 乳児の育つ環境と保育の課題 2. 乳児の発達と動き～発達を促すかかわり 3. 乳児の「気になる」発達とは 4. 生活習慣が及ぼす乳児の心身の健康への影響 5. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(1) 食事 6. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(2) 排泄 7. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(3) 睡眠 8. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(4) 清潔 9. 親になることー 親性の獲得と家族の変化 10. 「子育て」と「ストレス」：「子育て」は「ストレス」か？ 11. 保育所における保護者に対する支援(1) 乳児期の家族環境の理解 12. 保育所における保護者に対する支援(2) 家族不和や虐待の子どもへの影響 13. 保育所における保護者に対する支援(3) 気になる子どもの理解とかかわり 14. 乳児保育と子育て支援～連携と調整における保育士の役割～ 15. まとめと試験				
実務経験を 活かす内容	助産師としての臨床経験を活かして、乳児期の子どもとその家族の発達の特徴を理論的に理解し、保育の現場で出会う乳児と家族への保育支援を実践するために必要な知識と方法について具体例を用いて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	毎回、資料を配布。 他の参考文献・書籍は授業中に提示する。 参考資料：『赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」実践力-保育所・家庭で役立つ-』				
準備学習の 具体的内容	授業資料やテキストの予習・復習をする。受講する者はプレゼンテーションの機会があるため、パソコンなどの機器が使えることが望ましい。				
評価の方法 基 準	定期試験（40％）：筆記試験（小論文形式）。論述内容における乳児の心身の発達の特徴やその家族の発達やその特性についての理解の程度を評価の基準とする。 プレゼンテーション課題の達成度（60％）：各テーマについて、乳児保育に焦点が当てられており、質疑応答において適切に返答できることを基準とする。プレゼンテーションについては、事前の指導・相談に応じるので、積極的に取り組むことを求める。				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連した社会時事について関心を持ち、課題発表にはその事前学習が十分に反映されることを求める。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	木戸 啓子		
授 業 科 目	親子支援演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 標 標	【授業の主題】 親子交流の場に継続的に関わることで、親子支援の進め方を理解する。また、自らが計画-実践-評価を行い、親子交流広場の運営・管理に関わる具体的知識・技術、職員の連携のあり方について理解する。 【到達目標】 親子と交流することで、親子交流のあり方や子育て支援の具体的方法と課題を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	- 親子交流施設の理解 (1) 親子交流広場を観察し、親子の姿を把握する。 - 親子交流施設の理解 (2) 親子交流広場を観察し、支援者の役割を理解する。 - 親子交流施設の理解 (3) 親子交流広場を観察し、親子の様子からケースカンファレンスを行う。 - 親子交流施設の理解 (4) 親子交流広場での演習課題を検討する。 - 親子支援のプログラム立案 (児童文化財) - 親子支援のプログラム (児童文化財) の展開 - 親子支援のプログラムの展開 (児童文化財) に関わる事後評価 - 親子支援のプログラム立案 (ふれあい遊び) - 親子支援のプログラム (ふれあい遊び) の展開 - 親子支援のプログラムの展開 (ふれあい遊び) に関わる事後評価 - 親子支援のプログラム立案 (行事) - 親子支援のプログラム (行事) の展開 - 親子支援のプログラムの展開 (行事) に関わる事後評価 - 親子交流広場での演習課題の総括を行う。 - 中間まとめ 親子支援の振り返りを行う。 - 子ども家庭福祉の制度の理解 - 子育て支援における連携の必要性 - 子育て支援における基本的視点 (1) 親子の視点 - 子育て支援における基本的視点 (2) 社会の視点 - 地域子育て支援拠点の成り立ち - 地域子育て支援拠点の制度上の位置づけ - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (1) 基本的な考え方 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (2) 支援者の役割 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (3) 子どもの遊びと環境 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (4) 親との関係性 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (5) 受容と自己決定 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (6) 運営管理と活動の改善 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (7) 職員同士の連携と研修 - 地域子育て支援拠点における課題 - まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	渡辺顕一郎・橋本真紀『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き第4版』中央法規 厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 ※ 参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
準備学習の 具体的内容	実際に親子交流広場“倉短ひろば くららっこ”での実践を伴うため、日常的に子育て支援の話題に触れ、積極的な姿勢での参加が望まれる。				
評 価 の 方 法 基 準	親子交流広場への積極的参加態度 (20%) プログラムの計画及び実践 (30%) 自己評価能力 (30%) 最終レポート (20%)				
履 修 上 の 注 意	親子交流広場“倉短ひろば くららっこ”への日常的な参加観察を心がける。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	三川 美幸（実務経験あり）		
授 業 科 目	子どもの音楽療法		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 本科目では、保育領域において援用される音楽療法の視点及び背景理論について理解を深める。また、障がいの有無に関わらず子どもの成長を支援する音楽を媒体とする援助方法の特徴、各種技法について体系的に学ぶことを目指す。 【到達目標】 ・音楽のもつ機能と子どもへの心理的・生理的作用について理解する。 ・音楽を媒体とした子どもの発達支援について理解を深める。 ・子どもと保育者の相互的な関わり（対話）における多様な表現表出について、多角的な視点を身に付ける。				
授業の内容 進 め 方	1. 「音楽」・「療法」の意味するもの/音楽教育との関係性について 2. 保育領域における音楽療法からの視点 3. 子どもの音楽療法の特徴 4. 音楽の機能と療法の背景理論 5. 活動の提供方法について 6. 音楽療法の2本の柱 7. 音楽的対話について 8. 創造性を育むオルフの音楽構造①特徴的な音楽パターン（ベースの働きと心理的作用） 9. 創造性を育むオルフの音楽構造②創造的な活動の展開へ 10. 創作の意味を考察する 11. 事例検討1（音楽と文化財の使用） 12. 事例検討2（子どもの身体表現支援） 13. 事例検討3（後方支援としての音楽療法） 14. 活動の提供方法について 15. グループ討議・まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	音楽療法士としての各種領域での実務経験を活かし、音楽療法背景理論の保育領域への援用について具体的な事例を用いて教授する。				
テ キ ス ト 教 材	稲田雅美(2016)『ここをつなぐミュージックセラピー』 高山仁著 (2014)『みんなで音楽』音楽之友社（幼児と音楽遊び演習Ⅱテキスト） 参考書：若尾裕 (1998)『子どもの音楽療法ハンドブック』音楽之友社 石井玲子 (2020)『音楽表現』教育情報出版（幼児と音楽遊び演習Ⅰテキスト） ミネルヴァ書房稲田雅美 (2003)『対話のエチュード』音楽之友社				
準備学習の 具体的内容	・テキストの指定された課題を予習する。指定された内容について復習を行う。 ・授業の中で、事前に調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	授業への取り組み (30%) 課題等の提出物 (30%) 課題の発表 (40%) の3つの観点から、総合的に評価する。				
履 修 上 の 注 意	・討議を中心に授業を進行するので、積極的にディスカッションに参加する姿勢を求める。 ・関連科目（幼児の音楽遊び演習Ⅰ・Ⅱ、障がい児保育特論）を履修していることが望ましい。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	障がい児保育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 子どもの精神発達について、横断的にとらえるだけでなく、「認識の発達水準」「関係の発達水準」の流れを辿ることによって、子どもの発達を縦断的に説明することができる。また、知的障がい・発達障がい（自閉症、注意欠如多動症、限局性学習障がい）の概要及びそれらに合併する疾患や類似する疾患について、成因、疫学、臨床症状、検査所見、予後、治療について理解することができる。 【到達目標】 ・子どもの成長、精神発達という軸のなかで SLD・ADHD・ASD 児の成長、精神発達の過程を説明することができる。 ・社会・文化という軸の中で、SLD・ADHD・ASD 児の障がい特性を説明することができる。 ・子どもの育ちは、既知の発達段階やマニュアル通りにいかないことを説明することができる。				
授業の内容 進 め 方	1. 発達の領域分け 2. 不安・緊張・孤立 3. 発達のおくれと言葉のおくれ 4. 認識発達のおくれと孤独 5. 関係発達のおくれと孤独 6. 高い感覚性の世界 7. 感覚世界の混乱性 8. 感覚の混乱性 9. 感覚の混乱性への対処努力 10. 高い衝動性の世界 11. 情動的混乱 12. 情動的混乱と対処努力 13. 児童期における支援 14. 幼児期における支援 15. 学童期における支援 定期試験は実施しない ※毎時間 10 分程度、テキストの以下の章の部分的購読を行う。 第 1 章 〈こころ〉をどうとらえるか 第 2 章 「精神医学」とはどんな学問か 第 3 章 精神障害の分類と診断				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	滝川一廣（著）（2017）『子どものための精神医学』医学書院。 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業中で、特に調べてくる事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	毎授業後のレポートを S（4 点）～D（0 点）で評価し、全 15 回分の総点を 100 点に傾斜配点し、評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	子育て支援特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 障がいのある子どもをもつ保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（子育て支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 【到達目標】 ・保護者の心を支え、問題を解決していくために使える技法と理論を説明することができる。 ・保育現場の子育て支援の現状を理解することができる。 ・保護者の子育ての現状を分析することができる。 ・カウンセリング技法を学ぶ中で、自分の他者へのかかわり方の姿勢、価値観、生きる姿勢の変化、いわゆる自己成長に気づくことができる。				
授業の内容 進 め 方	1. 親の発達・保育者の発達に影響を及ぼす社会的な課題、子育て支援の推進 2. いわゆるモンスターペアレント、特別な支援を必要とする子どもへの支援・親支援 保護者集団で起こる問題 3. 保護者支援①ー成長・発達が遅い、指しゃぶり/神経性習癖ー 4. 保護者支援①ー体が弱い/虚弱、恐怖症/体験と心の発達ー 5. 保護者支援①ー音声表出・言語発達の問題ー 6. 保護者支援①ーアレルギー対応/健康への配慮ー 7. 保護者支援①ー人見知り/対人関係の形成ー 8. 保護者支援①ー排せつの自立/生活習慣の確立、テレビ・ゲーム中心の生活/生活習慣の乱れー 9. 保護者支援①ー運動が苦手/粗大運動の発達、生活のリズムの確立・獲得、手先が不器用/利き手ー 10. 保護者支援①ー言葉遣い/言葉の発達、落ち着いて行動できない、集中できないー 11. 保護者支援①ー感情のコントロール/攻撃性、表出言語理解/知的発達ー 12. 保護者支援①ー親への反抗/自己主張、登園渋り、友達とのいざこざー 13. 保護者支援②ー親同士のトラブル、母親の家族問題、嫁姑の問題ー 14. 保護者支援②ー子育てと夫婦関係、子育て不安ー 15. 保護者支援②ー親のメンタルの問題、しかり方がわからないー ※適宜、保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニックの演習を行う。 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	諸富祥彦・富田久枝（著）（2015）『保育現場で使える カウンセリング・テクニッー保護者支援・先生のチームワーク編ー』ぎょうせい。 諸岡祥直・大竹尚子（編）（2020）『スキルアップ 保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニッ』誠信書房。 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業中で、特に調べてくる事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	毎授業後のレポートを S（4 点）～D（0 点）で評価し、全 15 回分の総点を 100 点に傾斜配点し、評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司（実務経験あり）		
授 業 科 目	子育て支援実習		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	【授業の主題】 障がいのある子どもの理解及びその保育内容、保護者への支援のあり方などについて理解する。また、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育カウンセリング）について実践する。 【到達目標】 ・観察や子どもとのかかわりを通して子どもを理解することができる。 ・既習の科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援ができる。 ・保育の指導案、観察、記録及び自己評価等ができる。				
授業の内容 進 め 方	1. 4 月の親子ふれあい遊び1－模擬保育－ 2. 4 月の親子ふれあい遊び1－実習－ 3. 4 月の親子ふれあい遊び1－反省会－ 4. 5 月の親子ふれあい遊び2－模擬保育－ 5. 5 月の親子ふれあい遊び2－実習－ 6. 5 月の親子ふれあい遊び2－反省会－ 7. 6 月の親子ふれあい遊び3－模擬保育－ 8. 6 月の親子ふれあい遊び3－実習－ 9. 6 月の親子ふれあい遊び3－反省会－ 10. 7 月の親子ふれあい遊び4－模擬保育－ 11. 7 月の親子ふれあい遊び4－実習－ 12. 7 月の親子ふれあい遊び4－反省会－ 13. 8 月の親子ふれあい遊び5－模擬保育－ 14. 8 月の親子ふれあい遊び5－実習－ 15. 8 月の親子ふれあい遊び5－反省会－ 16. 10 月の親子ふれあい遊び6－模擬保育－ 17. 10 月の親子ふれあい遊び6－実習－ 18. 10 月の親子ふれあい遊び6－反省会－ 19. 11 月の親子ふれあい遊び7－模擬保育－ 20. 11 月の親子ふれあい遊び7－実習－ 21. 11 月の親子ふれあい遊び7－反省会－ 22. 12 月の親子ふれあい遊び8－模擬保育－ 23. 12 月の親子ふれあい遊び8－実習－ 24. 12 月の親子ふれあい遊び8－反省会－ 25. 1 月の親子ふれあい遊び9－模擬保育－ 26. 1 月の親子ふれあい遊び9－実習－ 27. 1 月の親子ふれあい遊び9－反省会－ 28. 2 月の親子ふれあい遊び10－模擬保育－ 29. 2 月の親子ふれあい遊び10－実習－ 30. 2 月の親子ふれあい遊び10－反省会－ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	特別支援学校での実務経験を活かし、個別の指導計画や個別的教育支援計画の作成意義及び作成・評価・修正過程（PDCA サイクル）に関して実践的に教授する。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省（編）（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版。 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社。				
準備学習の 具体的内容	指導案を作成し、模擬保育を行う。 保育場面では、主の保育者、個別の保育者、観察者に分かれて実習に参加する。 実習で行う遊びや支援、観察の視点・項目について調べる。				
評価の方法 基 準	模擬保育（指導案：20%、教材、教具の制作・準備：20%、模擬保育態度：20%） 実習（実習態度：20%） 反省会資料（個別レポート：20%）				
履 修 上 の 注 意	実習は、年間計 10 回（4 月～2 月の土曜日）の実習を行う。9 月は、実施しない。日程は、『授業計画シラバス』の授業・行事計画表に記載している。 親子ふれあい教室に参加する家族に関する情報に関して、守秘義務を課す。 子育て支援センターへの交通費は、自費とする。 パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	保育学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅰ		科 目 区 分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	【授業の主題】 学修・探求の成果論文を執筆するための基礎的知識を修得する。また、2 年時に作成する「学修総まとめ科目履修計画書」に準じて、学修・探求の成果論文の構想案を作成する。 【到達目標】 ・学修・探求の成果論文のテーマの着想に至った経緯を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の目的について、その意義を説明する。 ・学修・探求の成果論文の手法・手段を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程を説明する。 ・学修・探求の成果論文について、得らえると予想される結果・成果の見通しを立てる。				
授業の内容 進 め 方	【クラス分け方式】 本科目は、ゼミナール（略称：ゼミ）を中心に学修・研究を行う。ゼミでは、ゼミ担当教員の指導助言のもと、学修・探求の成果論文を執筆する。ゼミ担当教員の指導の内容・進め方等については、各研究領域の方法による。 1～2. オリエンテーション（学位授与制度、履修方法）（担当：専攻科担任） 3～9. 学修・探求の成果論文のテーマ（案）の学修・探求（担当：ゼミ担当教員） 10～11. 学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 12～13. 学修・探求の成果論文のテーマの着想（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 14～15. 学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 16～19. 学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成（担当：ゼミ担当教員） 20～21. 学修・探求の成果論文中間発表会（担当：保育学科全教員） 22～23. 学修・探求の成果論文のテーマ（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 24～25. 学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 26～27. 学修・探求の成果論文のテーマ（仮）の着想の修正（担当：ゼミ担当教員） 28～29. 学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 30. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	厚生労働省『保育所保育指針解説（平成 30 年施行）』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成 30 年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年施行）』フレーベル館 各ゼミにおいて、研究内容に即して適宜配布する。				
準備学習の 具体的内容	進行状況により、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
評価の方法 基 準	学修過程や研究成果をもとに評価を行う。				
履 修 上 の 注 意	ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。 ゼミ配属については、希望調査をもとに調整を行う。				

学 科	保育臨床専攻		担 当 教 員		保育学科全教員	
授 業 科 目	特別研究Ⅱ			科 目 区 分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年	
授業の主題 目 標	【授業の主題】 「特別研究Ⅰ」の継続科目に位置づけられる。「研究計画書（案）」（特別研究Ⅰ）にもとづいた研究課題について、フィールドでの質的・量的調査や文献研究等を主体的に行い、独自の研究結果を得て、学修・探求の成果論文にまとめる。 【到達目標】 ・学修・探求の成果論文のテーマの背景について、具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の目的と意義を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の手法・手段を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の内容を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文について、得られた結果に対する考察を行い、まとめる。					
授業の内容 進 め 方	【クラス分け方式】 本科目は、ゼミナール（略称：ゼミ）を中心に学修・研究を行う。ゼミでは、ゼミ担当教員の指導助言のもと、学修・探求の成果論文を執筆する。ゼミ担当教員の指導の内容・進め方等については、各研究領域の方法による。 学修成果論文発表会において発表を行い、学士としての能力を養う。 1～9. フィールドでの調査実施計画（ゼミ担当教員） 調査方法や調査倫理（ゼミ担当教員） 調査計画に沿った研究の準備・実施（ゼミ担当教員） 10～13. 調査結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等（ゼミ担当教員） 14～15. 学修総まとめ科目履修計画書の作成（ゼミ担当教員） 16～24. 学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成（ゼミ担当教員） 25～26. 学修成果発表会（保育学科全教員） 27～28. 学修・探求の成果論文の修正（ゼミ担当教員） 29～30. 学修総まとめ科目 成果の要旨作成（ゼミ担当教員） 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 各ゼミにおいて、研究内容に即して適宜配布する。					
準備学習の 具体的内容	進行状況により、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。					
評価の方法 基 準	・授業や研究活動への主体的な取り組み状況 ・修了論文 ・学修成果発表会・修了論文報告 ・学修・探究とその成果（論文）に対する成績評価の基準 などを基に判断する。					
履 修 上 の 注 意	発表会の準備、運営は専攻科生の協力のもとで行う。 修了論文の提出期限（提出先：学生部）は、原則として、2年次の1月中旬（別途日時を指定）とする。 ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。					